

ご挨拶

大瀨 用四郎

昨年度は、前校長の仲地みゆき先生から引き継いだ学校をいかにいい形で継続させていくかを念頭に、学校経営を進めてきました。その間、多くの保護者や地域の皆様から多大なご支援と叱咤激励を頂戴し、慣れない校長職を乗り越えることができました。ありがとうございました。今年度は新たな学校教育目標を基に、新任の先生方6名を迎え、令和6年度のスタートを切りました。児童数の減少で、今年度は職員減となり、少ない職員体制の中ではありますが、進みゆく方向性を揃え、協働しながら子供たち一人一人を育てていきます。

さて、昨年度は新型コロナが5類に移行し、各種行事がコロナ以前のような規模で行われました。コロナ以前の行事の規模に慣れない中ではありましたが、子供たちは過去の先輩たちの活躍に劣らないくらい学習面やスポーツ面、文化面で、紙面で書き尽くせないほどのたくさんの成果を残し、活躍してくれました。そのような子供たちの活躍の裏では、多くの保護者や地域住民、そして西の子を島内外で応援・支援してくれる関係者の皆様がいたからこそだと感じております。今年度も学校行事や大会等でお世話になることが多々あるかと思いますが、どうかこれまで同様のご支援とご協力をお願いします。

ところで、今年度私は30年以上にわたり掲げられてきた本校の学校教育目標を以下のように変えました。

**「人間尊重を基盤とし、自立心を身に付け、自律的・自発的に行動し、
答えのない状況でもしなやかに生きようとする西の子の育成」**

学校目標の最初に「人間尊重」ということばを入れました。人間一人一人には価値があります。自分や相手の人権、人種や性別、性格などの違いを受け入れ、多様性を認めることは、人間尊重の基盤となります。まずは人として大切なことをしっかりと自分の中に持つことが、この世界や人間社会を生きる上で大切な土台と考えました。次に、自立心ですが、竹富町には高校がなく、15歳で島立ちとなります。子供たちには必然的に精神的な自立心が求められます。学校教育目標に込めた自立とは、「他者とともに生き」「自分が生きている社会に貢献し、その社会が少しでもよくなるようにすること」という意味を込めました。次に続く自律という言葉は、文字通り自分を律する、つまり、自分で考えて、自分をコントロールできることを意味します。自発という言葉には、他からの指示などを受けず、自分の意志で進んで行うという意味があります。最後の「答えのない状況」ですが、今の時代は、将来のことを予測するのが難しい時代、正しい答えがない時代と言われるかもしれません。そのような時でも耐え抜き、その場の状況や、相手に合わせてしなやかに、人生を生き抜いていこうとする西の子を育てたいということ、西表小中学校の新しい学校教育目標の中に込めました。

終わりに、子供たちの教育は、学校だけでなく、学校・家庭・地域社会がそれぞれ適切な役割分担を果たしながら、相互に連携して行われることが重要であると考えます。今後とも保護者や地域の皆様にはご支援、ご協力を重ねてお願い申し上げますとともに、令和6年度もよろしくお願い申し上げます。